Shimada 2 2022 No.284 City Public Relations 広報しまだ

島田人 Story

Shimadajin File #121

交流を通し、子どもたちの楽しい思い出を後押しする――

市が行うモンゴル出前講座に合わせ、島田市国際交流協会モンゴル友好委員会は1月、ゲル（モンゴルの移動式住居）を島田第三小学校に出張移設しました。設立から10年間、代表を務める太田原さんは活動を通して、モンゴルの魅力を伝え、島田市とモンゴルとの交流を支えています。

【モンゴルとの出会い】

委員会発足のきっかけは、平成20年に同級生の大島博行（おおしまひろゆき）さんの手を借り、モンゴル国を訪れたことだったと話します。

「当時、首都のウランバートルで会社経営をする大島さんの助けがあり、六合地区の住民でモンゴルを訪れました。訪問先は、首都から約230㎞離れたヘンティー県の小学校でした。六合小と六合東小の児童が描いた絵を30枚ほど預かり、現地の小学校に届けました。向こうの絵も預かって島田の小学校に届けたことが、友好委員会の活動を始めるきっかけでしたね。平成23年には『島田モンゴル友好委員会』を設立し、2年後に国際交流協会が組織され、現在の名称になりました」

モンゴル友好委員会 代表
太田原廣進（おおたはらこうしん）さん(東町)

【思い出づくりを後押し】

「委員会の初活動は、モンゴル国ナラン外国語学校の生徒と市内中学校との交流でした。11歳から13歳までの生徒が島田に来て、2つの中学校にそれぞれ2週間ずつ滞在しました。モンゴルの子どもたちと出会って驚いたのは、物おじしない姿勢や自分の進みたい道をみんなが持っていることです。滞在中も、周りとすぐになじんでいましたね。学校間の交流は、毎年続けています。近年はコロナ禍で対面は中止されていますが、オンラインでの交流は続いているそうです。委員会では『楽しい思い出を作ってもらいたい』という思いで、サポートを続けています」

【次の世代へつなぐ】

モンゴルと島田の魅力を相互に発信し合うためには、次世代への活動の引き継ぎが欠かせないと、太田原さんは語ります。

「1月に、普段は東町にあるゲルを第三小学校へ出張移設しました。日本の雨にも対応できるように、素材を綿の布からシートに張り替えています。ゲルに触れて、モンゴルに興味を持つ人が増えたら嬉しいですね。交流を続けていくためにも、サポートする会員が必要だと考えています。この他にも、昨年は委員会の活動をきっかけに、モンゴルのボクシングチームが島田市で東京五輪の事前合宿を行いました。今年は、夏にモンゴルへの学生派遣やイベントの開催を計画。また、島田大祭が開催されるため、モンゴルからの受け入れは大祭を挟み、2週間程度を予定しています。ぜひ、島田の伝統と文化を楽しんでもらいたいですね」

太田原さんは、これからもモンゴルと島田をつなぎ、たくさんの子どもたちの笑顔と思い出を増やしていきます。

太田原さんと会員の曽根（そね）さん（左）、大島（おおしま）さん(右)

発行／編集 島田市市長戦略部広報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
https://www.city.shimada.shizuoka.jp
0547-36-7118

ミックス 紙 FSC FSC® C021550